



サイジャーナル

月刊
24-5・6
第403号

日本サイ科学会 平成24年5月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎(22) 279) 0908-FAX (22) 274) 0097	中 部 〒503-0981 大垣市松町1290 山 田 哲 三 ☎FAX 0584 (91) 1192	北 陸 〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリステック健康科学研究所内 佐 藤 禎 花 ☎076 (234) 6634	関 西 〒659-0011 芦屋市六麓荘町 (事務局) 9-39 木 村 のり子 ☎FAX 0797 (22) 6425	九 州 〒862-0976 熊本市九品寺 1-9-7 金 子 輝 夫
---	---	--	---	--

五月本部例会のお知らせ

命とソマチットと般若心経の探検

講師 徳永康夫氏

科学ではまだ正体が掴めていない「命」というものを、宗教的アプローチではなく、難解な哲学的解説でもなく、具体的に分かり易く科学的に皆様と一緒に探検して、解明します。

人間と宇宙はどちらも二重構造になっていたのです。人間は「肉体」と「本質の生命体」の二重構造。宇宙は「この世」と「あの世」の二重構造。そして「肉体」は「この世」に属し、「本質の生命体」は「あの世」に属していたのです。

何だ、宗教だ、と勘違いしないでください。これらのことは、真実だったので。最先端の量子力学の一部もほぼ近くまで到達しています。驚くべきことに、2500年前の般若心経はとくにこの事実を知っていたことが分かります。科学を超えていたのです。そして、この「命」に、不思議な超微

小生命体の「ソマチット」が、重要な役割をはたしていると思われるのです。ワクワクするこの情報を皆様にすべて公開します。

●徳永康夫氏プロフィール

1965年九州大学法学部卒。50歳で三菱商事退職後、東洋医学、アーユルベダ、ホメオパシー、物理、生物学、天文学、量子力学、釈迦の経典、新約・旧約聖書の研究、水・波動・気・輪廻転生などを独学。2004年日本ソマチット学会設立に参画、理事に就任。2008年ソマチットの発見者ガストン・ネサンをカナダに訪問。NPO統合医療臨床情報センター理事。日本サイ科学会理事。(株)恒常代表取締役。著書に『命の不思議探検』がある。

日時 平成24年5月12日(土)

午後1時半〜5時

会場 北とびあ7階701会議室
交通 JR京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二千元 一般 三千元

学生 一千元

今月号の記事

- ◎ 五月本部例会のお知らせ
- ◎ 第22回全国大会研究発表募集
- ◎ 御寄付御礼
- ◎ 六月通常総会・本部例会予告
- ◎ 関西サイ科学会五月例会予告
- ◎ 関西サイ科学会六月例会予告
- ◎ 北陸サイ科学会五月例会予告
- ◎ 中部サイ科学会五月例会予告
- ◎ 七月本部例会予告
- ◎ 第16回宇宙生命研究分科会予告
- ◎ 九月本部例会報告の訂正
- ◎ 一月本部例会報告
- ◎ 第三六四回関西サイ科学会報告
- ◎ 第三六五回関西サイ科学会報告
- ◎ 本部門例会講演録の販売
- ◎ サイ(気)の測定について

六月通常総会出欠葉書のご返送のお願い

※来る六月通常総会のための、賛助会員、維持会員、正会員に対する「出欠用」と欠席者のための「委任状」を兼ねたハガキが今回同封されておりますので、必ず6月5日までにご投函願います。(忘れないうちにお早めにお願致します。)

平成24年日本サイ科学会
第22回全国大会発表募集

毎年重要な行事である全国大会が、今年も10月14日(日)北とびあ第一研修室にて、開催されます。会員の研究発表、シンポジウム(テーマは「コンタクト」)が予定されておりますが、会員の皆様には積極的な発表ご参加を期待しております。

これまでの研究での新しい発見、現在もしくは近いうちにデータ取りをしてまとめたこと、偶発現象(UFO、心霊現象等)の目撃と原因の推測・解明、様々なサイ現象の仮説(理論)など「サイ」に関連することなら何でも結構です。で、ご自分の考えや研究成果をまとめて、発表して頂きたいと存じます。

8月末までにタイトルと簡単な内容(2000字くらい)をメール、またはFAX、ハガキでお送りください、一応審査させていただきます、通りましたら9月20日までに原稿ファイルをメール添付等で戴きたいと思えます。原稿の書式は後でお知らせ致します。

「心を科学する博物館」と
一般の御寄付御礼
(3/31受領分まで)

金二万円也	鴨川 裕司
金一万一千円	浪平 博人
金六千円	原口 和恵
金三千円	久保千壽子
金三千円	須崎 康洋
金一千円	窪田啓次郎
金一千円	久保田昌治
金一千円	飛田 洋子
金一千円	青木 保夫
金一千円	友寄 光子
金一千円	天野 聖子
金一千円	濱田 敏博
金一千円	今田 恵子
金一千円	奥村 八郎
金一千円	赤松 洋一
金一千円	中野 俊子
金一千円	片山 政記
金一千円	寺嶋 崇恵
金一千円	岩谷 好子

六月通常総会・本部例会予告

※午後一時半から30分の通常総会後、講演会があります。

六月本部例会のお知らせ

密教開運術
「強運の成長戦略提言」(氣を高めれば運はやってくる)

講師 松永修岳氏
(ラックマネージメント・フォーラム代表)

我々の生きる社会は「不確実性」の時代に突入しています。論理的に正解を追求しても良い結果を得ることが不可能な時代です。イノベーション(革新と創造)をもって仕事を再生し、異質な人と手を組むなど人生やビジネスの「再編」がなければ成功はありません。

成功は「運と実力の組み合わせ」の結果です。例えばゴルフで勝利するには相当の実力と運が必要であり、スロットでゲームをするには実力は必要とせず、運だけが必要とします。「運」と「実力」の影響力の度合いは、何をするかによって変わります。あらゆる結果の中には「運」と「実力」が存在しています。いくら実力があっても、いくつ

かの不運が重なれば、実力は発揮できません。常に実力以外に「運」を考慮することができるとかどうか、この時代の勝敗を分けることになるとでしょう。

ビジネスもスポーツも今、誰が「運」が強いかを見分け、登用し、仕事や試合の流れを読みとって決断と行動をすれば成功できます。その「流れ」そのものが「運」の正体です。「流れ」を読みとり、「流れ」を変えることが、『ラックマネージメント(運の管理)』なのです。ビジネスも人生も不確定です。それゆえに「運」は、人生のあらゆる場面に現れます。

運を管理・マネージメントすることで、健康、長寿、富と財、愛と幸福が実現可能なものになるでしょう。『ラックマネージメント』は人生をより良くするための、まさに『強運の成長戦略』なのです。

※「開運」について、実業の世界でも大いなる実績で信頼を得ている松永修岳氏のお話が聞ける貴重な機会ですので、会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加ください。

●松永修岳氏プロフィール

岐阜県・養老生まれ。経営戦略コンサルタント。『運』の専門家。ラックマネージメント・フォーラム代表、(社)日本文化経済支援機構理事長、(社)日本建築医学協会理事長。

19歳の頃より奇門遁甲、風水、四柱推命などの運命学を学び、さらに東洋医学、哲学、心理学などの分野についても研鑽を重ねる。数々の修行・荒行を経て、究極の荒行と言われる『千日回峰行』で開眼する。修験道・空海密教の大方満大阿闍梨でもある。

脳科学や心理学、環境科学と「風水」を融合した『風水環境科学』、そして「奇門遁甲」などの運命学と科学を統合した独自の理論体系『ラックマネージメント』を駆使し、上場会社をはじめとする経営者や政治家、さらには一流のスポート選手やアーティストを数多く指導。

2006年7月には、永続的に繁栄する平和な社会の創造を担う『真の社会的リーダーたる幸福な成功者』を輩出することをミッションに掲げる『ラックマネージメント・フォーラム』を設立。同代表

となり、「志」の高い優秀な経営者の育成・指導に情熱を注いでいる。また、伝承医学の叡智と環境心理学、環境心理学、大脳生理学の最新の研究データを融合させた新しい代替医療としての『建築医学』を提唱。

2009年7月に『(社)日本建築医学協会』を設立し、同理事長を務める。多種多様な分野で活躍する様から、『現代の空海』との呼び声も高い。

主な著書に、『女の運の磨き方』(永岡出版)、『一生お金に困らない人の運の習慣』(中経出版)、『運に好かれる人、見放される人』(ダイヤモンド社)、『強運革命』(廣済堂)、『建築医学入門ー代替医療としての住環境』(一光社)、『幸せを呼ぶー奇跡の玄関』(マキノ出版)など多数。

オフィシャルサイト
<http://www.luckmanagement.jp/>
<http://www.fusui.co.jp/>

※『ラックマネージメント』、『風水環境科学』、『建築医学』は、(株)エンライトメントハート・コーポレーションの登録商標です。

日時 平成24年6月10日(日)

午後1時半〜2時 通常総会
午後2時〜5時 講演

会場 北とびあ9階902会議室
交通 JR京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円
一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

◆ ◆
関西日本サイ科学会
五月例会のお知らせ

地上絵の発見から邪馬台国の謎を解明

講師 上森 三郎氏

日時 平成24年5月19日(土)

午後1時半〜5時

会場 大阪科学技術センター
七〇一号室
交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車
北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員 二〇〇〇円

◆ ◆
一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

問合せ 0797・22・6425
関西日本サイ科学会事務局まで

◆ ◆
関西日本サイ科学会
六月例会のお知らせ

ニュートリノ光速超えの謎を解く鍵は正四面体(プラトン立体) [SOH]の生まれるメカニズムにあった

講師 いよのいし氏

日時 平成24年6月16日(土)

午後1時半〜5時

会場 大阪科学技術センター
六〇五号室
交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車
北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員 二〇〇〇円
一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

問合せ 0797・22・6425
関西日本サイ科学会事務局まで

◆ ◆

北陸日本サイ科学会
五月定例会のお知らせ

あの二人が帰ってきた!!
夢のコラボ第2弾!!

当日内容、乞うご期待!

講師 竹本 良氏

(科学問題評論家)

講師 飛島竜一氏

(フリーランス・

科学ジャーナリスト)

「ビートたけしのTVタックル
特番超常現象バトル」にUFO/
ESP肯定派の常連として出演し
ている竹本良先生と、過疎の村を
救ったスーパー公務員として注目
を集めている高野誠鮮こと飛島竜
一先生、お二人のコラボ第2弾!
昨年、聞き逃した方も、続きを
聞きたい!という方も、この機会
に是非皆様お誘い合わせの上、御
参加下さい!

日時 平成24年5月27日(日)

午後1時45分〜4時30分

(午後1時15分受付)

会場 金沢市文化ホール3階

「大会議室」

(石川県金沢市高岡町15・1)

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

お問合せ 北陸日本サイ科学会

TEL 076・2334・6634

(ホリスティック健康科学研究所)

※参加ご希望の方はお早めにご連

絡下さい。随時入会受付中。

中部日本サイ科学会

五月研究集会のお知らせ

会員三名の研究・体験発表

日時 平成24年5月19日(土)

午後1時半〜5時

会場 つるまい会館2F

名古屋千種区吹上1・1・3

052・744・3884

交通

JR中央線鶴舞駅、または

地下鉄鶴舞駅下車、名大病

会費

無料
※会員以外の方の参加も大歓迎

七月本部例会予告

水と珪素の集団リズム力

講師 中島敏樹氏

水は、数千万個から数億個の集
団を構成。集団の秩序(リズム力)
と活力(電気エネルギー)で、魅惑
的な仕事を成し遂げている。現代
科学が置き忘れた「水の集団の神
秘な突然変異機能」の話です。水
集団の調律リズムが、命の場を為
している。その秩序と活力の助っ
人が、土や岩石の素「珪素」の大事
な特性『表面陰電荷力』です。命
の素「寄り集い群れて輪す」は、東
日本大震災で人々の心に灯された
『絆』そのものです。宇宙に顕在化
した「もの」の始まりです。

いのちは、水の二大特性『双極
子特性』『水素結合』と珪素の『親
水力』に支えられています。水は
宇宙と同じ階層構造を成している。
水のリズム力に影響を与える人の
意念、感謝・祈り、そして音響リ
ズムを水に映し測りました。何と

未確認物質「気」の関与が、透けて
見えてきました。人々の関心が高
い「珪酸コロイド粒子の表面陰電
荷作用」、「低線量放射線ホルミシ
ス作用」、「生体内原子転換の現実」
などの神祕例を挙げ、科学の紐を
解いてみます。

※水の不思議な性質と今まで知ら
れていないパワーを分かりやす
く解説していただきます。会員
の皆様は是非ご友人、知人をお
誘いして御参加ください。

●中島敏樹氏プロフィール

昭和16年生まれ。石川県出身。
平成12年〜23年 東洋化学株式会
社技術顧問。

水の分析器アクアアナライザと
出会い、「水の集団リズム力」の解
明に取り組む。水集団の新たな振
動領域(500〜4000キロヘ
ルツ)を世界に先駆け明らかにし
た。気、想念、音響など微弱エネ
ルギーをも水で測った。『場のエネ
ルギー』の確かな関わりを、水が
語りかけてくれました。水の神祕
な統合科学に一石を投じている。

第16回宇宙生命研究分科会

日時 平成24年7月14日(土)
午後1時半～5時
会場 北とびあ7階701会議室
交通 JR京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル
会費 二〇〇〇円
一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

第6回 UFO・オーブシンポジウム

コンタクト準備!

日時 平成24年7月29日(日)

10時～17時30分

会場 品川健康センター会議室

(品川区北品川3・11・22)

交通 京浜急行新馬場駅徒歩2分

JR京浜東北線大井町駅東

口から東急バス渋谷駅行で

「新馬場駅前」下車

一般会費 五〇〇円

会員会費 一〇〇〇円(日本サイ科

学会・サトルエネルギー学会・

太陽の会・国際問題研究会)

※会員以外の方の参加も大歓迎

今回もUFO・オーブ賞ならびにマージナル・サイエンス賞が授与されます!

われこそはという方のチャレンジ、お待ちしております。

(世話人 阿久津淳)

◎九月本部例会報告の訂正

鈴木俊輔氏の講演録で四頁第一段に記された数字に誤植がありました。

12行目 誤「61」↓正「64」

一月本部例会報告

縄文スピリットでサバイバル

講師 ミッツィ 植田氏

今ご紹介にあずかりましたミツ

ツィ植田と申します。八ヶ岳の原

村から来ました。「縄文スピリット

でサバイバル」というタイトルにつ

きましては、おいおい分かってい

ただけると思います。

最初に「マヤの予言」についてお

話し致します。16世紀にマヤ文明

はスペイン人によって滅ぼされま

した。マヤの子孫であるラテンア

メリカインディアンが残したカレ

ンダーが、2012年の12月21日

で終わっている、そこからこの日

が人類の運命の日なのか、という

ことで映画等でも話題になりました。

マヤの偉大な王でもあり、哲学者にポカル・モダンという有名な王様がいて、その王が埋葬されているパレンケの遺跡に宇宙飛行士が宇宙船の中で操縦しているように見える石版があります。

ポカル・モダン王が残している予言に、「古き世界のサイクルは2012年の12月21日に消滅し、新しい黄金時代の幕が開く」と書いており、また「人類が消滅から自らを救うためには、人類はナチュラル・タイムで生きることになり、立ち返らなければならない。」とも

書いております。

では「ナチュラル・タイム」とは何かということですが、これが今日の「縄文スピリットでサバイバル」というものにつながっていきま

す。また私達が物質的価値の限界に気づいて、人間の真からもって

いる可能性に目覚めていく、この

ときに新しい黄金時代の幕開けが始まる、ということになります。

この予言を信じるか信じないか

に関わらず、2012年といいま

すと既に今年ですので、この成り

行きはあと少し待てばいいだけと

いうことで、非常に楽しみです。

私の友人でジョー・マクモニ

グルというリモートビューアーが

います。彼がマヤの予言について、

「やあ、あのねー、マヤ人が今も

生きていたら、また新しいカレン

ダーを作っていたと思うよ。心配

しなくてもいいよ。」とよく言っ

ておりました。なので、2012年

問題は心配しなくてもいいです、

それよりも我々の意識が変わるこ

とによって、黄金時代の幕が開く

ということ、そちらのほうが意識

識を向けていかれた方が楽しいの

ではないかなと思います。

では「縄文スピリットでサバイバル」ということなのですが、私は今、標高1250mの長野県諏訪郡原村に住んでおり、今日はそこからいきなり標高0mのところを下りてきたわけです。

ここはナウマン象を発見したナウマン博士がフォッサマグナを発見・命名し、原村はその西側寄りにあります。原村はフォッサマグナと中央構造線と鹿島香取神宮につながる、太陽の道構造線の3本の構造線の交じわっている場所にあります。ですから、地殻が地下の深いところでぎゅーっと押し合っている、ゼロ磁場なので、原村はエネルギーが湧き上がるパワースポットにあります。

私は考古学者でもありませんしプロの発掘の研究者でもありませんが、原村近辺の考古館や博物館に行ったり、縄文の講座に参加したり、自分で土器を造ったりしているうちに、「この縄文の人達はただ者じゃないな」ということが、何か直感的に分かってきたんですね。それで益々面白くなって、今夢中になって勉強させていただいております。

縄文時代は長きに渡っておりまして、諸説ありますが今から一万六千五百年前から始まったとも言われています。長いので、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期等に分けられます。

私の住んでいる原村には縄文時代の「阿久遺跡」がありますが、前期から中期にかけてのものだと言われております。この阿久遺跡は「世界最古、世界最長、世界最大の遺跡」なんです。長さ120m、幅30mの広さに人間の頭位から拳位の石が二十万個以上散らばっていました。

阿久遺跡はイギリスの「ストーンヘンジ」よりもはるかに古く、「ストーンヘンジ」は暦と関係する遺跡と言われていますが、私は阿久遺跡は何かの装置ではないかと推測しております。二十万個の石を持ち寄って何をしていたのだろうと思います。その土器とか出土物から非常に精神性が高いのではないかと思われるものが沢山出ています。

新潟あたりで出土した「火炎土器」に対して、阿久遺跡周辺では「水煙土器」が出ております。弥生時代のシンプルな土器に対して、

日常生活で使っていたであろうこれらのデザイン性の高い縄文土器は平和な時代のものだと考えられます。

この貴重で世界遺産になってもいいと思われる阿久遺跡が、中央高速道路のコースとぶつかり、研究者と住民の再三のコース変更の陳情にも関わらず、埋没保存」ということで遺跡の上に土を盛って今は阿久遺跡を見ることができません。私は利権により「抹殺された遺跡」だと思っております。

一万数千年前から始まったと考えられる縄文時代は、世界のどの古代文明よりも古く、文化も発展していました。縄文時代は弥生人が入ってきた三千年前まで続いたのですが、武器で傷つけられた骨が出る戦闘的な弥生人に対して、縄文人にはそういう骨がないのです。

縄文人はポカル・モダン王にもつながる、スーパーナチュラル（超自然）で生きていたとみられます。スーパーナチュラルとは、現世だけでなく、次元の超えた世界、聖霊や超意識生命体と同居する世

界、直観の世界であり、縄文人にとつて阿久遺跡はそういう次元を超えた世界と交流するための装置ではなかったかと私は推測しています。

「リモートビューイング」は、一九七〇年代米ソの冷戦時代に、ソ連が人間兵器として、開発していました。アメリカは始めは鼻も引っかけなかったのですが、スキップ・ドータという少佐が、ソ連の人間兵器としてのリモートビューイングについてCIAの調査を読んで、上官に進言し、軍事関係で国家予算が出て始めました。

ジョー・マクモニグルは、私も知っている中でもリモートビューイングではトップクラスの方で、ターゲットヒット率85%以上ということで、これはすごいことです。彼が一番活躍したのは、モスクワにあるアメリカ大使館の改修工事のときにひそかに仕掛けられた盗聴器を、ワシントンからリモートビューイングし、185個の盗聴器をすべて指摘し、現場で撤去されました。

またマクモニグルは、キューバ危機でも活躍し、さらにソ連の

北海に面した軍事工場で海岸から四キロ離れた場所で、潜水艦を製造していることを指摘し、始めはあり得ないと思われたのですが、ソ連はそこから運河を掘ったことで、指摘が正しいことが分かりました。

実はマクモニーグルには双子の姉がいて、二人はテレパシーで会話もできたのですが、彼女も能力者なので見えたもの感じたものすべてをおしゃべりしていたら、周囲から気がふれているとみられて、強制的に施設に入れられ、ずっと薬物を使われたので、心臓に負担がきて心臓病で亡くなりました。

マクモニーグルはつねに言うのですが、「僕が今、命があるのは、おしゃべりでなかったからだよ。」と。また彼は、ベトナム戦争のときにも陸軍兵士として戦場に行っていたのですが、最前線の部隊がほぼ全滅のときにもただ一人生き残ったことが何回もあり、そのサバイバル能力がリモートビューイングの被験者の第一号として拔擢されることになったのです。

リモートビューイングは「遠隔透視」と訳されますが、本当は距

離を超えるだけでなく、時空を超えるもので、月や火星だけでなく、過去や未来の世界も見ることができまます。



リモートビューイング・プロジェクトはいろいろ変遷がありましたが、一九九五年に終了しました。リモートビューイングのシステムはマクモニーグルだけでなく、インゴ・スワンやデビッド・モアハウス、ポール・スミスらによって確立されてきましたが、特にインゴ・スワンはリモートビューイングのプロトコルを創った父と言われています。

現在マクモニーグルは表にはあまり出ていませんが、行方不明の子供の捜索や鉱物資源の探索等において、今でも毎日訓練は欠かさな

いそうです。

リモートビューイング・プロジェクト(最後のコードネームは「スター・ゲート」)が終了したことでいいこともありました。それまでは国家の軍事機密で、一般の人々は一切知る余地がなかったのですが、職を失ったリモートビューアーが本を書いたり、セミナーを開催することで私達が学ぶことが出来ました。

リモートビューイングは、人間が本来持っている五感を超えた知覚能力を高める可能性をもったテクノロジーだと私はとらえています。精神エネルギーの科学的応用ともいえるのではないかと思っております。

※この後、出席者全員がリモートビューイングの簡単な訓練に参加した。そして、何人かが結構ターゲットの写真に近い成績を上げた。

各自、紙となめらかに書ける筆記用具を用意し、ミッツィ植田氏が用意した沢山のターゲット封筒から一つの番号を読み上げる、その直後に参加者は

1. 筋肉反射で紙に自由に線を引

く↓イデオグラム

2. 描いた絵が、「ランド(大地、土地、地面、山、平原、農地、田園等)または「ウォーター(水、水中、池、川、湖、海、水脈等)」または「ストラクチャー(人工の構造物)」の3つから感じるもの一つ選択する

3. その絵から五感で感じる「形容詞」を書きあげる↓熱い、寒い、赤い、青い、丸い、尖った、ふわふわした、光っている、静かな、騒々しい、くさい等

ターゲットが具体的に何であるかを先に言うよりも、この順番で感じていくことが大切で、あくまでも左脳を動かさずに、直感だけで描き、感じるのが大事です。

最後にまとめますと、私達の立ち返りたいのは
・戦いの無い分かち合い、支え合
いの世界すなわち共存、共栄で
きる世界をつくる。

・永続可能、再生可能な資源の使
い方を目指す。

・「ナンバーワン」ではなく、「オン
リーワン」を目指す。自分の役
割に気づいて、それを実行する。

今日の講演タイトル「縄文スピリットでサバイバル」とつけたのは、日本人の祖先系である縄文人と同様、直観力から来る智慧を日常生活に活用して生きましょ、そのためには行動あるのみです。

「出来ると思ったらできる、出来ないと思ったらできない」by ミツツイ植田

「夢は思い描くものではなく、実行するもの」で、ステイブ・ジョブズの名言で「自分が世界を変えられると本気で信じる人達こそが、本当に世界を変えている」という言葉があります。

今日日本は政治も経済もこんな状態ですが、我々はへこんでいる場合ではなく、日本人が立ち上がってほしいと思います。縄文スピリットのエネルギーはそういうものを持つています。

岡本天明氏の日月神示に、「うれしうれしで世界をころんとひっくり返すぞ。」とありますが、私達は何事も楽しみながら行動することが一番です。

第三百六十四回関西日本サイ科学会研究集会報告

スピリチュアルの世界を探る
—潜在意識から宇宙意識へ—

講師 檀上洪司氏
(西光寺住職)

とき 平成24年1月21日(土)
ところ 大阪科学技術センター

檀上氏は昭和9年(1934年)1月2日生まれ。神戸大学教育学部卒、同研究科修了。兵庫県立高校教諭、兵庫県いなみ野学園(高齢者大学)教授などとして勤務。昭和32年より西光寺住職を務めている。

「私は小学生の頃、先生から催眠(当時は催眠術といった)の話聞き、興味を持ち、その後、通信教育や直接講習を受けたり、教員になってからは、教育催眠研究会などで潜在意識、潜在能力の開発などについて研修してきました。そして日本サイ科学会などを通じて色々な方と知り合い、ユニークな

ことも体験しました。また僧侶として見えない世界と接する中で、宗教と科学の関係について学ぶところも多くありました。」として次の話があった。

1. 催眠について

田宮馨氏の、「神秘流催眠術」通信教育に始まり、講師による直接講習、または関西教育催眠心理研究会などで催眠講習を受講。

当時「催眠は急速な教育であり、教育は緩慢なる催眠である」ということが言われた。

(医師グループの)臨床医学催眠研究会と(教員グループの)教育催眠研究会が合同で研究会を持つこともあった。

「プロ催眠術師」の著者であるプロの催眠術師の世和玄次氏は催眠の根本原理は「あなたがそうであると思うようにあなたの人生は創られる。」ということだと述べている。

「顕在(潜在)意識の下に潜在意識があり、潜在意識の下に宇宙意識がある」といわれている。

檀上氏は潜在能力活用について、若い時に影響を受けた書物として、次の3冊を挙げている。

豊沢豊雄『あなたの力を倍にする』
C・Mプリストル『信念の魔術』
ノーマン・ピール『積極的考え方の力』

2. 清田益章君のスプーン曲げ、念写

西光寺で曲げたスプーンの実物の説明。

清田氏曰く「霊がついて前以て色々教えてくれる。スプーンが曲がったり、捻じれる瞬間には見えなくなる気がする」。

檀上氏の話では「他の人たちの見ている前で、貸しビルの掛け時計の針を、清田君が曲がれと曲げたこともあった」という。

3. 菊花会・小田秀人氏の交霊会 霊媒・竹内満朋氏とローム霊の 声(ダイレクトボイス)の録音の紹介、「竜」の色紙のコピー配布。

これらはエクトプラズム(ギリシヤ語でエクトは外部、プラズムは作られたもの)のことで身体の中から外へ引き出された意味)の作用とされ、この名称はノーベル生理学・医学賞受賞者・フランス人のシャルル・ロベール・リシエ博士によるものであり、エクトプラズ

ムは煙、霧、ガスのような感じである。幽霊の正体に名前をつけたのがノーベル賞受賞の学者であったというのも面白いことだと思う。

4. 日本念写協会の会長であった巽直道氏は般若心経の心を治病にあてはめると「治る、治る、すぐ治る、きつと治る、必ず治る」と念じることだとして多くの難病者が救われた。そして巽氏は体の末端には神経が通っていないところもある。それがうまく動いているのは細胞のテレパシーではないかと言っていた。

5. 日本念写協会専務理事をしていた宮内力氏は理論物理学者で著書も出されているが、「念波は光波に通じる」「佛の光明は灯りではない、想念のことを指している」と述べていた。

佛教で無量光如来・不可思議光如来というのもその意味と思われる。

6. 尾崎里美さんについて

尾崎さんは「私は学年でも一番貧乏な家に生まれ育ちました。家は雨漏りし、お腹いっぱい食べた

記憶もほとんどありません・・・」という生活から美容師になる道を選び、23歳で独立し、会社設立。月給8万円から7年で年商5億円の企業にまで成長させた。



その後すべてを手放し、イメージトレーナーに転身した。さらに48歳でアメリカ、フロリダ州の4年制単科大学でヒプノセラピー（催眠療法）を専攻、卒業した。

ホ・オポノポノのヒューレン博士を招聘、オーラ撮影、カンボジアに小学校を建設するなどのボランティア活動をを行っている。「わくわくと心踊る感情が、あなたの潜在意識を突き動かす」「すべての出逢いには波動が影響しています」

著書 尾崎里美著『想像して創造する』（発行 カナリヤ書房）他

7. 共時性と量子論

甲南大学名誉教授の佐藤明雄氏はユングの共時性（シンクロニステイ・意味のある偶然の一致）から量子力学に興味を持ち研究されている。

「そっくりの双子同士はたとえ遠くに離れていてももう一方が危険にさらされているとき、それを察知するといわれる。テレパシーの話はたくさんある。だが科学者はこのような主張に疑いの目を向ける。それは主に、こうした不思議なつながりがどのようにして成り立つのかはつきりしないからだ。

だが科学者は物理の世界でこれに劣らず奇妙なことが起こるといふことを受け入れなければならなくなっている。それは粒子の間に瞬時に成り立つ繋がりが。これは粒子同士がどれだけ離れていても弱まらない。テレパシーに相当するこの量子現象は世界中の実験室で日々実際に引き起こされているのだ。」

（『テレポーターション・瞬間移動

の夢』デヴィッド・ダーリング著林大訳・発行光文社）

檀上氏はこの偶然の一致が佛教でいう因縁と通じるものであり、よい因縁がよい運につながる、悪い因縁が悪い運につながるのではないかといっている。

そして量子論でいう「物と心」の関係が佛教でいう「物心一如」につながるのではないかと述べている。

8. 政木和三氏（大阪大学に勤務、工学博士）
仏像の物質化、バイオライト他、啓示による実用化研究多数。

9. 村上晋一氏（神戸大学名誉教授・工学博士）

「霊界の様相」などのテーマで講演、未知の世界の研究に挑戦しておられる。

現在、世界は宗教、民族、国籍、主義の違いで対立、紛争が繰り返されている。それらを超えて「ありがとう（感謝）」「すみません（反省）」の世界を目指していくことが大切ではないだろうか。

今回は西光寺の住職を務めながらサイ現象を研究されたお話で中々興味のあるものでした。お寺にも呼んで親しくお話をされたということで、実験の真実性を実感しました。

当日の参加者は会員11名、非会員12名、合計23名でした。今回のカセットテープはありません。

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)

第三百六十五回関西日本サイ科学会研究集会報告

あの世から見た般若心経

講師 徳永康夫氏

とき 平成24年2月18日(土)
ところ 大阪科学技術センター

徳永氏は1942年満州生まれ。九大法卒。50歳で三菱商事退職後、東洋医学、アーユルベータ、ホメオパシー、物理、生物学、天文学、

量子力学、釈迦の経典、新旧約聖書の、水・波動・気・輪廻転生などを独学研究。(株)恒常 代表取締役、元日本ソマチット学会副理事長、日本サイ科学会理事。近著『命の不思議探検』(たま出版)。

あの世と言っても宗教ではなく、科学をベースとした解説です。「般若心経」は日本人の中では、昔から写経するだけでも、読むだけでもご利益があると言われるいますがその「真の意味」は、謎のまま二千五百年間、解明されたことはなかったようです。今回その謎を、あの世から見るといふ観点、でも、同時に科学的な観点から解き明かしました。その結果はとても納得のいく、心が安らかになる素晴らしいものでした。そのすべてを、皆さまに公開いたします。

いろんな勉強をしてきたが、一般の解説書では分からないことが多い。

一般人は洗脳されている

科学的とは正しいと証明されたものを信じることになっている。非科学的なものは「怪しい」と

し、証明されていないものは、信じない。

たとえば、幽霊、UFO、宇宙人などは信じないのが科学的とされる。

このような「洗脳」は学校や、新聞、TVでなされている。

お経が基本である

お釈迦様は「慈悲」、イエスキリストは「愛」を基本とし、いずれも二千年続いたが、両方とも諸派が発生している。

本来一般の人に真実を伝えるための存在であるべきである。

宇宙は二重構造であり、人間も二重構造

この世 見える世界 見える世界

物質界 非物質界

三次元 5次元

たて、横、高さ ない

質量 ない

※質量がなければ速度は無長大
肉体 霊体+魂(本質の生命体)

次のように見ると人と石ころには差はない

人間は70%は水である。水は水素と酸素である。あとはタンパク質でC、H、O、N、石ころはH、O、Fe、Zn、Siからなり原子のレベルでは同じである。

その違いは命であるが、その命が現代科学では分からない。

現代科学では命は研究してはいない。現代科学では最小単位は細胞であるとしている。

細胞は400億個の原子できている。この原子の観点からすれば人と石ころに違いはない。

命とは何か

人間は死んだら終わりという思想がある。

一方で臨死体験の手記は数多くある。欧米では文献が多い。

死とは心肺停止してから5分経過すると再生率は50%、10分経過すると10%になるといわれる(トリーカー曲線)。

これらの臨死体験に共通していることは、自分の身体が上の空間

に上がり、上から家族が泣いているのを見下ろしている。家族に声をかけても通じない。そのうちに

光が見え、亡くなった人たちの顔

が見えてくる。

しばらくして自分の名を呼ばれて気がつくともとのベッドの上に横たわっている。

このように空間にいる自分が戻ると生き返るといふ現象になる。つまり本質の生命体が命である。

臨死体験は体脱(現象)である。

一般の人は臨死体験を夢で見ることはあるが、この体脱が意識的に出来る人がいる。それはロバート・モンロー氏である。

ロバート氏は瞑想により体脱で出来るようになった。これがヘミシンクの研究である。

エマニエル・スウェーデンボルグは20分野を極めた18世紀の大科学者であるが、60歳を超えてから体脱し、その体験を哲学者カントにも見せたという。

般若心経について

般若心経にはサンスクリット語の音写の部分と意味のある部分がある。

「ハンニヤハラ」は音写であり、「菩薩」はボーダ、「舍利子」とはシヤリーという女性の子供という意味である。

ネハン ニルバーナ

「アノクターラ」は音写であり、「照見五蘊皆空」これは中国語で、サンスクリットもある。

このように語の音写と中国語訳の漢字訳とが混在していて解りにくい。



前提条件

1. 大本/小本

「如是我聞」 私はこのように聞いた。

舍利子が質問する。

私たちは師の話を聞いているが、ほかの人はどうなのか。

「一切苦役」までは菩薩の状況の紹介である。

弟子ではなく一般大衆に向けて説かれたものである。

2. 輪廻転生

これを理解していないと解らない。何回も生まれ変わって佛へ近づく。

3. 体脱ができること

要因の一つは瞑想である。禪定という言葉と同じ。

心を統一して瞑想し心を落ち着かせると目の前に真理が現れ心がゆるがない。

本質の生命体は永遠に生きている。

時々肉体に宿る。死は本質に戻ること。

本質の生命体が主である。

釈迦は菩提樹の下で7年あまりの瞑想の結果、生老病死を理解した。

この世 あの時

肉体 本質

従 主、

そのやり方、密教、阿含経、

法灯 人によって異なる方法を説いた これを方便という 教えが

違う

いつ 誰に どんなお経を説いたかがポイントである。

(法論はどちらがまけても釈迦の恥)という川柳もある。

50歳〜72歳は弟子のレベルが作った。

72歳〜82歳は法華経を説いている。

妙法蓮華経について

サツタルダー、プングリカー、スートラ

尊い法は白蓮のようにきれいである。

ダルマは60もの耳がある。

「ある」といいう方は所有物の意味。

例えば靴は赤い色を持っているといいう言い方をする。

信条、哲理 最後に涅槃経を説いた。

日本にいろんな宗派があり宗論というのがあった。

(宗論はどちらがまけても釈迦困り)と川柳に詠まれるくらいであった。

般若ハラミッタ サンスクリット

知恵 完成 パラ 彼岸

ノウハウ イタ 至

あの世へ行くノウハウ

五蘊受想行識 人間そのものは空である

度一切苦厄 何もないから苦しむなよ

無明 無知ということ あの世界
で知がないことはない

12縁起があるか それはない
無苦集滅道 苦に気づきなさい
苦は消せる

悟らなくてよい 悟るべきこと
もない

菩薩のレベルはノウハウを知っ
ているから苦しみはない

ボサータ

いろんな佛もあの世へ行くノウ
ハウがあるのでノウハウを知りな
さい

それは素晴らしいマントーラで
あって本当である 比べるものも
ない

これがマントーラである

ギャティ ギャティ

行った 行った、完全に行った
ときにそこに悟りがあり幸せがあ
る

行ったときに スヴァ

スワーハ 幸いあれ

この「ギャティ ギャティ」が般
若心経のいわんとするところで、
それまではそこに到る説明である。

☆ ☆

物理的な観点と「あの世から見
る」という高次元の解析を対比し
ながら、般若心経を読み解く解り
やすい講演でした。これからこの
ようなもの見方の時代になって
いくのでしょうか。

当日の参加者は会員14名、非
会員16名、合計30名でした。今
回のカセットテープは20000円
(送料込み)です。ご注文は関西
日本サイ科学会事務局木村(電話
0797・22・6425)まで。

今後の予定

5月19日(土) 上森三郎氏

「地上絵の発見から邪馬台国の
謎を解明」

6月16日(土) いよのいし氏

「ニュートリノ光速超えの謎を解
く鍵は正四面体(プラトン立体)

[SOH]の生まれるメカニズムに
あつた」

7月21日(土) 重川風天氏

(関西日本サイ科学会会長
河野 明夫)

《本部月例会講演録の販売》

本部月例会のICレコーダーによる録音の音声ファイル(拡張子 wma)なので、聞くためには「CDあるいはDVDプレーヤー」の付いたウィンドウズ・パソコンが必要になります。

以下のリストから興味のある講演、今一度聞いてみたいものを御注文願います。講演時間は平均3時間前後で質疑応答等も含まれます。マイクからの直接録音ではなく、会場のスピーカー音の録音ですので、完璧な鮮明さではありませんが、もちろん内容は普通に聞き取れます。当日放映されたビデオやOHP等で紹介された図や写真は付いておりません。

講演録の代金は1回分2000円(送料等含む)です。お送りするのは講演録の入った「CD-R」で1枚につき6、7回分が入ります。(一部のノートパソコンを除いて、大抵のウィンドウズ・パソコンには、「CD-Rファイル」が読めるCD、DVDプレーヤーがついております。)

※御注文は郵便局にある「郵便振替用紙」の通信欄にご希望の講演録の『年/月 講師名』と金額(1回分2000円)を記入し、「郵便振替口座 00100-2-15344 加入者名 日本サイ科学会」にお振込願います。皆様からの御注文をお待ちしております。

- 2008/ 4/12 石川幹人氏「21世紀の超心理学」
2008/ 5/10 茶丸氏「ジョーティシャ(インド占星学)の宇宙観と哲学」
2008/ 6/14 木内鶴彦氏「宇宙の記憶」
2008/ 7/12 佐田弘幸氏「プラス思考」から運命を創造する「ゼロ思考」へ
2008/ 9/13 徳永康夫氏「神秘の生命体ソマチット」
2008/10/26 第19回全国大会
2008/11/15 宇治橋泰志氏「『難病を根本から改善する』新治療法を求めて」
2008/12/13 加藤隆吉氏「催眠と変性意識」
2009/ 2/14 天野聖子氏「大いなる自己と対話する自問自答の重要性と地球の現状」
2009/ 4/18 小牧昭一郎氏「人間の体の周辺に観察される磁気」
2009/ 5/ 9 膳 敬子氏「若返るって本当？」チベット体操を体験、感じるワーク
2009/ 6/ 7 山本 輝氏「言霊の幸はう日本国の復活」
2009/ 7/11 高月美樹氏「太陰太陽暦の活用法」
2009/ 9/12 高峯秀樹氏「未来を探る手相の神秘と科学」
2009/10/11 第20回全国大会
2009/11/14 山口敏太郎氏「真実とフェイク」環境汚染とDNA操作による未確認生物(UMA)の誕生について
2010/ 1/16 前田知則氏「21世紀への適応プログラムとしての心のデトックス」
2010/ 2/20 須田泰心氏「超能力者の構造」
2010/ 4/10 根本泰行氏「映画『ウオーター』にみる水の真実」
2010/ 5/ 8 堤 裕司氏「レイラインと富士塚信仰」
2010/ 6/20 久保田昌治氏「水とは・・・水は生体内では勿論のこと自然界でも今我々が考えているよりはるかに重要な働きをしている。」
2010/ 7/10 木下次男氏「福島県飯野町『千貫森謎空間』補足：UFO学について」
2010/ 9/11 浪平、苗、小林「感じられる“サイ”3種類のサイデバイス・ソフト体験会」
2010/10/10 第21回全国大会 シンポジウムテーマ「2012年問題とサイ」
2010/11/14 秋山真人氏「夢診断と未来予測」
2010/12/12 宇治橋泰志氏「新たな予防医学を目指して」
2011/ 1/ 8 新年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
2011/ 2/12 石川和孝氏「世紀末的神示と予言の陰陽道的思考」
2011/ 5/14 赤松 瞳氏「最新脳科学と透視能力」
2011/ 6/12 井出 治氏「未知エネルギーの研究とチャネリング」
2011/ 7/18 古村豊治氏「なぜあなたに大きな奇蹟が起こらないのか？」
2011/ 9/10 鈴木俊輔氏「3・11 新文明の幕開け ～日本人の使命～」
2011/10/ 9 創立35周年記念大会 シンポジウムテーマ「パワースポット」
2011/11/12 小林信正氏「心霊現象について」
2011/12/10 忘年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
2012/ 1/14 ミッツィ 植田氏「縄文スピリットでサバイバル」
2012/ 2/11 小林正典氏「サイ科学に関係した電気・磁気の研究の紹介」
2012/ 4/14 ロン薄葉氏「オーブ現象とこれまでの歩み」
川崎利男氏「オーブ観察7年間その傾向と残された課題」

(2) 紫外可視吸収スペクトル

紫外線 (200～380nm) と可視光線 (380～780nm) の吸収スペクトルは分子の電子スペクトルである。光を吸収すると、結合電子の基底状態から高エネルギー状態へと励起されることになる。具体的には、気功師が放射して得た気功水を、透明な容器にいれ、光を当てて、反対側に出てくる光の強さを測定する。つまり、当てる紫外線の光の波長を変化させて、波長に対応して吸収される度合いをプロットすることになる。李昇平らは、上記のラマンスペクトルと同一内容の実験を行った (1988)。遺伝子DNAとRNAの溶液にサイ (気) を放射して、紫外線吸収スペクトルの変化を求めた。遺伝子は、約280nmに紫外線吸収のピークがある。発功時と10時間経過後のあいだに、3～4回、測定した。結果をみると、DNA・RNAのピーク値 (曲線) が変化する「増殖効果」等が測定された。これは核酸のプリン・ピリミジン塩基対の水素結合が結合されたり、又は切断される事を意味するものと推測出来る。

(3) 電気伝導率変化

水は優れた溶媒の性質を持っている。純水は電気を通さないが、電解質を溶け込ませると電気を通すようになる。電気伝導率は、電気の通しやすさを示すものであり、電荷を持ったイオンが電流の担い手であるといわれている。また電気伝導率は温度が高くなると上昇するので、測定は恒温水槽中で行い、また電極には交流電源を用いるのが一般的である。

佐々木茂美らは、室内の空気汚染に馴染ませた (汚染を飽和させる) 市販蒸留水を用い、恒温水槽中に、サイ (気) を放射して造った気功水と、対象水を置いて、両者を比較する場合の電気伝導率の変化から、サイ (気) を測定した (1985)。サイ (気) の混入の内容に応じて、電導率は様々に増加した。一方、零磁場を用いて造った人工気功水は、気功師の放射によるものと、ほぼ同一程度の値を示す事がわかり、さらに、長時間にわたって気 (サイ) が保

持される場合もある。他方、恒温水槽の温度を変えて測定した電気伝導率の変化を、熱活性化過程として求めた活性化エネルギー値は $\Delta H=32\text{kcal/mol}$ 、($=1.38\text{eV}$) であった。また赤外線吸収スペクトル測定、レーザーラマンスペクトル測定、核磁気共鳴測定 (NMR) 等を用いた検討結果から、水の分子構造は変化しないで、水素原子の結合の程度が変化し、結合したり、又は切断したりする場合がある。つまり気功水は、水分子のクラスター (集合状態) の変化が伝導率変化の原因であるらしい、と推定した。

4) 生体変化によるサイ (気) の測定

政府の助成金を得て行ったISLISグループ (代表者、山本幹男) の多数の優れた研究結果がある (2004、潜在能力の科学)。これらについては、別に報告する予定にしたい。

5) 脈診による気場の測定

苗鉄軍、佐々木茂美らは、上述のBACSを用いて、気場 (パワースポット) に存在するサイ (気) を測定した (2012)。気場に潜在する気のエネルギーと、そこに参入した人体とは、確かに、サイ (気) を介して交流している事が定量的に推定できる。

参考文献

- (1) 巖新、陸租蔭ら、各種水溶液に外気を放射した時のラマンスペクトルの変化 (1988、自然雑誌、11-8、pp.567-571)
- (2) 巖新、陸租蔭ら、遺伝子DNA・RNAに外気を照射した時の紫外線吸収スペクトルの変化 (1988、自然雑誌、11-9、pp.647-649)
- (3) 陳鳴、張明安ら、紫外線分光光度法を用いた気功水の実験報告 (1990-3月、中華気功、pp.6-11)。その他省略。

D2=1.98~2.29のカオスアトラクターである事等が判明した。さらに此を基に念写形成のモデルを構築し、シミュレーションと考察により、このモデルの正当性を主張した(2007、苗鉄軍、佐々木茂美)。

(3) 脈動する赤外線変化など

外気を直接測定したのは中国上海原子核研究所の顧函森ら(1979)であるといわれている。気功師の手の平の経穴から放出される外気の一部を赤外線センサーで測定したところ、周波数0.5~0.9Hz、出力1.2~数 μ wのランダムパルス状に変調された脈動赤外線放射が観測された。作用距離を調べたところ、3.0~3.5mの途中に、速度がより加速される区域があり、その速度は20~50cm/sであった。また微粒子状の信号情報も測定された。その他として、音、静電気、放射線などが測定されている。

(4) バイオホトンの観測

すべての生物は何らかの形で光っている。稲葉文男バイオトンプロジェクトは生物トン発光を研究・調査している。光子1個/sec(1000カウント/10秒)が計測可能なセンサー(光電子増倍管)を用いて、人体の皮膚表面の発光状況を調べている。プロジェクトの宇佐史らの報告(1992)によると、気功師(中国人)も通常人と同程度に光っている。しかし気功師は、通常人とは異なり、その光りを強めたり、弱めたり制御する事ができる。なお皮膚表面の温度と発光の強さとは別であり、両者間に負の相関が存在する場合がある。また表面温度上昇は手の平のまんなか(老宮)が最大である。発光スペクトルの波長分析によると、赤色(600~700nm)が多い。しかし緑色範囲にも発光の山がある。気功治療の患者に対して放射する時には、光の出方が異なる場合がある。40名以上の測定によると、年齢差は無いが個人差は大きい。

(5) 磁気(磁場)変化の観測

小牧昭一郎らは、xyz座標軸のそれぞれに3

個の磁気フラックスゲート方式センサーを置いて、被験者(気功師)の身体周辺に発生した磁気の3次元的な時間変化を観測・計測した(1996)。発生した磁気は、磁束密度のピークが0.5Gに達し、数秒程度存在しており、方向は多様であり、立体的な空間を占める事が多い。町好雄らは低周波脈動磁場を観測・計測した(1980)。瀬戸明らは人体磁気異常輻射現象を観測・測定した(1995)。小久保秀之らは異常生体磁場の観測を行った(1999)。

3) 水に吸収させて測定する

人体の60%以上は水である。水は生命の基であり、また水は総ゆる物を溶かし込む性質があると言われている。サイ(気)は直接測定が出来ないので、水に溶かし込んで、水溶液(気功水)として、測定する事が行われている。

物質に光を照射すると、光と物質の相互作用により反射、屈折、吸収の他に散乱が起きる。散乱光の中には入射光と同じ波長の光が散乱するレイリー散乱(弾性散乱)と、入射光とは異なるラマン散乱(非弾性散乱)がある。しかしラマン散乱はレイリー散乱よりも弱く、10(-6乗)程も微弱の場合がある。

(1) ラマンスペクトル

中国精華大学の李昇平らは、巖新気功師が放射した時のサイ(気)を、水道水、0.9%生理食塩水、50%ブドウ糖溶液、抗生物質水溶液に溶かし込み、レーザー光を当てる方法でラマンスペクトルを求めた(1988)。例えば、水道水にサイ(気)を放射して得た気功水の場合には、ラマンシフト(raman shift) 400.00~4000.00 {cm}の(-1乗)の間の2100.00付近に強さ(intensity)の山峯頂のある山状の幅広い散乱が発生したが、約2時間後には消失した。1986年12月22日~1987年1月23日のあいだに10回のテストを行い、発功距離を3m~1900kmに変えてテストしたが、何れの場合にもほぼ同一の変化が認められた(距離には依存しない)。



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://homepage3.nifty.com/PSIJ/> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

サイ(気)の測定について

佐々木 茂美

1) はしがき

人間は心(精神、魂)と肉体から出来ているが、形而下学としての肉体面の進歩に比較すると、形而上学としての精神面の進歩発達は無いに等しい。これは、宗教や倫理などの立場から、心の科学的な分析や解明が、永い間、タブー視されていた為であると言われている。最近になると、人工知能やロボット開発の工学的な立場から、人間の精神面の研究の必要性が議論される様になってきた。他方、人間と動物を分けるのは、信仰心の有無である、とも言われている。これは、人間には魂があり、精神と信仰心が重要である事を意味しているのであろう。他方、「こころの宗教」と「ものの科学」の間を埋めるのはサイ(気)科学であるとも言われている。今回は、健康や元気の基であり、また心と物の間を埋める意味を持つ「サイ(気)」について検討することにした。

2) サイ(気)の直接測定

体内にある気(サイ)を内気、体外にある気(サイ)を外気と言う。便宜的にそのように呼んでいるが、本質的には同一である。「経絡(経穴)」を対象にした電気科学的な内気の測定は、本山博によって1974年頃から開始され、現在は、AMI(体液-自律神経機能測定器)として

実用化・販売されている。最近になり、伝統医学(漢方)の内気としての「脈診(触診、定性判断)」の、複雑系カオス解析を用いた計数・定量が鹿児島大学(医)の「重要課題解決型推進研究」として実施され、実用化製品が(株)CCI社からBACS(生体系の活性度チェック、カオス解析計)として販売されている(苗鉄軍開発)。都合により、本稿では外気の測定を扱う。

(1) 遮光カメラからの光群湧出

宮内力、福田豊らは、透視・念写(イメージで見て、画像を画く)実験(1975)において、念力現象(PK、画像)生起時に遮光カメラ内から物理的な光子群が湧き出す事を発見し、その時間変化等を観測・記録した。

(2) 念球のカオスアトラクター

佐々木茂美、小川雄二らは、零意識(変性意識、ASC)下での透視・念写(イメージで見て、画像を画く)実験(1976)において、念力現象(PK、画像形成)発生点付近で遮光TVビジコン内に念球(球状光子群)が発生すること、並びに念球の特徴的な経時諸変化を観測・記録し、その軌跡変化から念写像が形成されるものと推定した。約30年後、それらの軌跡の経時変化を、指尖脈波カオス解析計(BACS)を用いて測定・解析したところ、フラクタル次元